

ア
児童の状況

きわめて良好	自己評価Bの 評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

I 自主的・自律的な生活

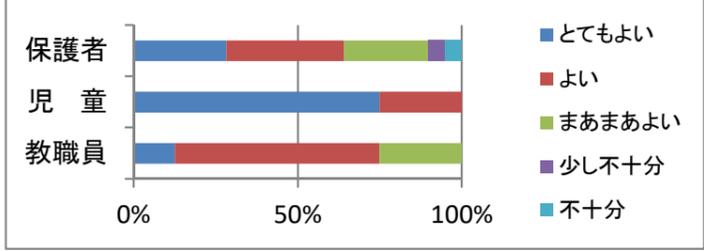
評価項目	自己評価A	協議会委員評価	協議会委員のコメント
基本的な生活習慣を身に付け、主体性や責任感をはぐくもうとしている。	前期 良好	良好	子どものヒアリングからも、自分の考えや意見を言えていることから、主体的な活動であったり、子どもの学校での活動Ⅱに対する責任感を感じることができた。
校 自 己 改 善 策 の 概 要 と 学	<p>【前期(→後期)】 これまでは本校の挨拶運動の活動の大部分は、運営委員会の児童が担ってきた。しかし、児童数減少のため今年度から委員会を精選し数を減らしたので、挨拶運動は4～6年生で組織する「にこにこスマイル隊」の活動へと移行した。子ども達は前年度までの挨拶運動を受け継いで、ひじょうによく頑張ってくれている、児童の「挨拶」や「集団の一員としての活動」に対する評価のポイントも高い結果となった。また、保護者からの「自発的な活動」のポイントがアップした。その背景には、150周年記念運動会や各種行事を通して、委員会の仕事や自分の役割をしっかりと果たそうと頑張る児童の姿の評価の表れではないか、と感じている。</p> <p>【後期(→次年度)】</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
1 基本的な生活習慣	(1)生活習慣の定着	あいさつ運動の推進 時と場に応じた言葉使いの指導	4	
	(2)規律ある落ち着いた生活	校内のルール・マナーの指導	4	
2 自主的・実践的な態度	(3)自分の考えを生かした活動	係活動・委員会活動の推進	4	
	(4)集団の一員としての活動	学級会活動・クラブ活動の推進	4	

[評価指標1]

(1)元気なあいさつと正しい言葉遣い

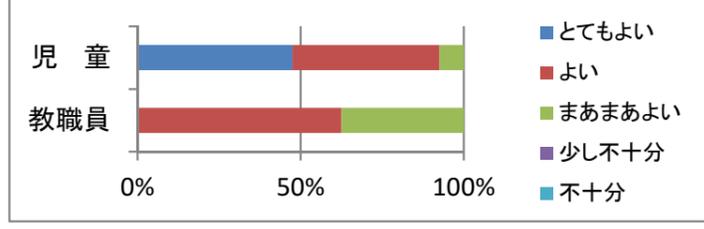
平均値 保護者3.8 児童4.8 教職員3.9



今年も大館警察署や秋北バスに協力していただき、「交通安全教室」「バスの乗り方教室」を行った。道路歩行・自転車運転・バス乗車について、安全意識を高めることができた。近年は、熊やイノシシの出没情報が増えている。学校からのメールで情報を配信し、注意喚起しているが、今後も児童の安全確保について多方面と協力していく必要がある。

(2)規律ある落ち着いた生活

平均値 児童4.4 教職員3.6

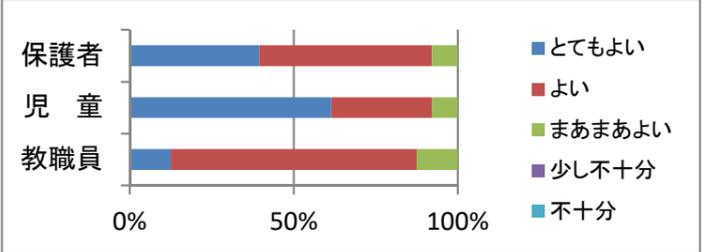


今年度の児童会テーマは「みんなで協力！150周年も元気な笑顔の東小っ子」である。児童総会では、これまで続いてきた本校の伝統を受け継ぎながら、東小っ子みんなの笑顔あふれる節目の一年となるよう力を合わせていくことを確認した。

[評価指標2]

(3)自分の考えを生かした活動

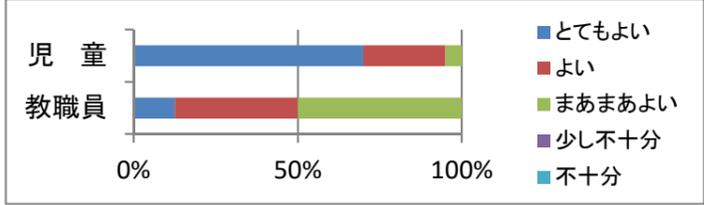
平均値 保護者4.3 児童4.5 教職員4.0



今年から、4～6年生で組織する「にこにこスマイル隊」を中心に挨拶運動を展開している。運動会以降から活動を始めたが、6年生が中心となって元気な挨拶を呼びかけている。また、毎月25日の「にこにこスマイルデー」には、縦割り班で行う「あいさつトレイン」の取り組みを開始した。児童数減少の状況はあるが、それに応じて効果的に活動できるよう今後も支援していきたい。

(4)集団の一員としての活動

平均値 児童4.7 教職員3.6

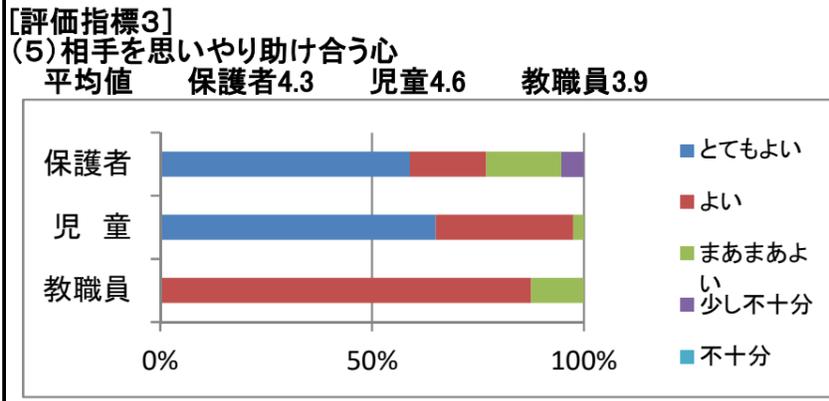


ア 児童の状況

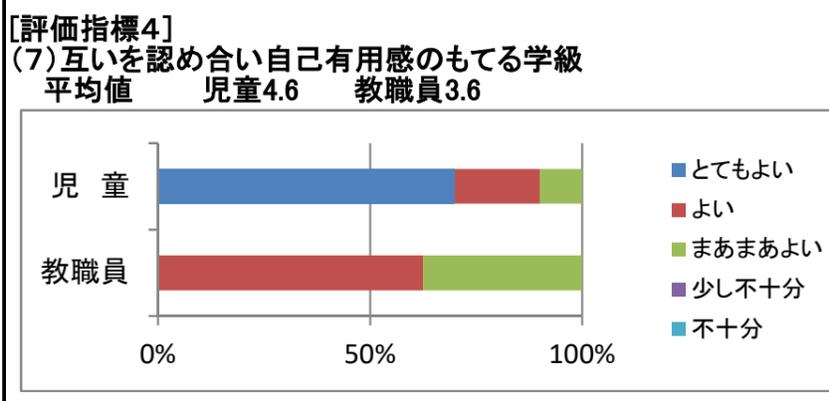
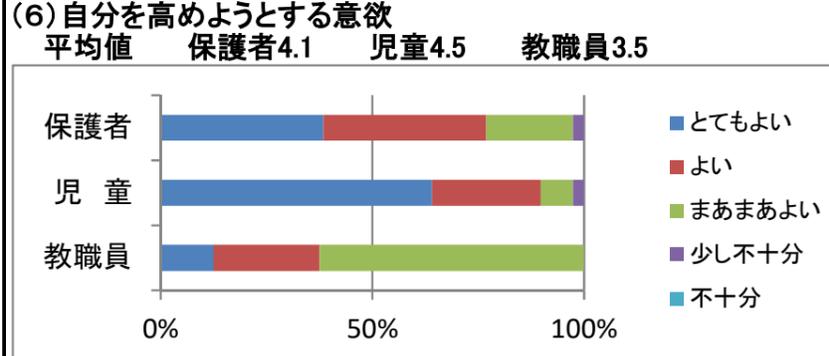
II 思いやりの心 たくましい心

評価項目		自己評価A	協議会委員評価	協議会委員のコメント
互いを認め合い、高め合いながら、学校生活を送り、豊かな人間性をはぐくもうとしている。	前期	良好	良好	子どもも先生も人数が減少してきているが、学校アンケートの評価は、保護者、児童、教職員共に高い値となっている。
	後期			
学校己の評価改善の概要と	【前期(→後期)】	「思いやり」「自分を高めようとする意欲」「自己有用感」のすべての項目で、児童の評価は4.5以上と高い。各種行事や異学年交流が以前と同様にできるようになったことで、協力の場面が増えたことや友達のよさが見えやすくなっている。また、本校児童の長所として友達の頑張りを素直に認めることができる子が多い、という点も挙げられる。教職員からの「自分を高めようとする意欲」「自己有用感」の評価が0.5ポイントずつ下がった。他校に比べて、児童一人一人の役割や仕事が多くなってしまっており、児童が負担を感じることを心配する部分があるのではないかと。		
	【後期(→次年度)】			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
3 豊かな心と向上心	(5) 相手を思いやり助け合う心	特別の教科道德の充実 異学年交流	4	
	(6) 自分を高めようとする意欲	目標達成に向けた取組 一人一人の活躍と称揚の場の設定	4	
4 集団生活・集団行動	(7) 互いを認め合い自己有用感のもてる学級	互いのよさを認め合う場の設定	4	



今年も「東小っ子わくわくタイム」(縦割り班遊び)の時間を設定した。昨年に引き続き2回目であるが、6年生が中心となってどんな遊びをするか、何が必要か等を自分たちで話し合って計画した。高学年も低学年も混ざって、楽しそうに遊び、仲良く交流する姿がたくさん見られた。2回目は、12月に実施する予定である。



毎月の全校集会で、各指導部が「月目標」を紹介している。それを基に、児童一人一人が「3Hめあてカード」に、個々の目標を立てて月の終わりに自己評価をする。それぞれが自分の頑張りが成長の跡を確かめられる有効な手立てとなっている。また、各種大会やコンクールでの頑張りは、全校集会時に紹介、表彰の場を設定している。温かい拍手を送られて嬉しそうにする子ども達の姿は、とても微笑ましいものである。

ア 児童の状況

Ⅲ 健康と体力

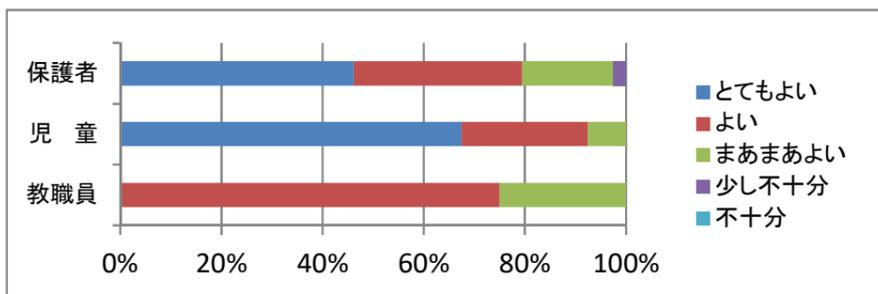
評価項目	自己評価A	協議会委員評価	協議会委員のコメント
食や運動を通して健康や体力への関心をもち、進んで健康な体づくりに取り組もうとしている。	前期	良好	残食する子どもが少し見られたが、よく食べていた。魚も工夫して調理されていた。栄養教諭との連携も図られている。給食は大変おいしかった。
	後期		
校自 己 改 善 策 の 概 要 と 学	【前期(→後期)】健康な生活習慣の定着では、「とんぶりっこタイム」でメディアについて自分たちで話し合ったことで、メディアに関する意識が向上したことが、数値が上がった要因と考えられる。望ましい食習慣の形成では、栄養教諭による食に関する授業の実施や、ランチルーム給食で苦手なものでも頑張って食べようとする児童が増えたことや、少しでもおかわりをしようとする児童が増えたことで、数値が上がった要因と考えられる。しかし、好き嫌いの多い児童もいるため、健康委員会や栄養教諭による、食育指導や食に関する取組を継続して行っていく。体力と運動能力の向上では、毎週水曜日を全校児童が体育館で遊ぶことができるようにしたことや、ボール遊びが可能になり、積極的に体を動かそうとする児童が増えたことが数値が上がった要因と考えられる。これからも、健康委員会活動を中心に体を動かす機会を設定し、全校で取り組んでいく。		
	【後期(→次年度)】		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
5 保健・食育の状況	(8)健康な生活習慣の定着	保健指導の充実 家庭への啓発活動 健康な生活習慣アンケート	4	
	(9)望ましい食習慣の形成	給食指導を通じた食育 家庭への啓発活動 栄養教諭との連携	4	
6 体力づくり	(10)体力と運動能力の向上	体育の授業の充実 体力テストの活用 外遊びや運動の奨励 体育環境づくりと整備	4	

[評価指標5]

(8)健康な生活習慣の定着

平均値 保護者4.2 児童4.6 教職員3.8



とんぶりっこタイム(7月)

7月上旬にメディアに関する全校集会を実施し、その翌週の昼読書の時間に「とんぶりっこタイム」を実施した。

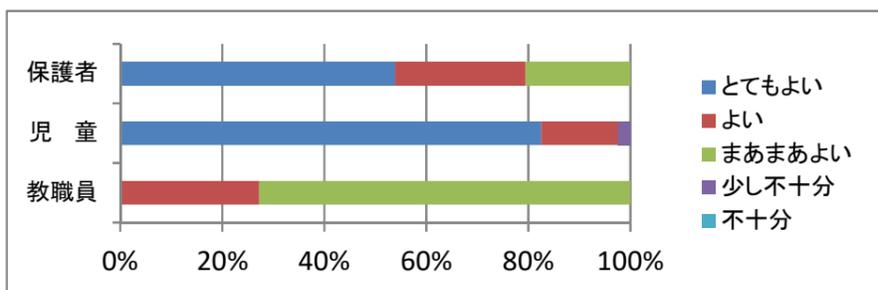
とんぶりっこタイムでは、縦割り班を4つのグループに分け、「時間通りにメディアをやめるためには」「メディア以外の楽しいこと」について話し合い、情報を共有した。

その後、夏休みははじめと終わりの5日間、メディアカードに取



(9)望ましい食習慣の形成

平均値 保護者4.3 児童4.8 教職員3.4



食に関する授業(6月)

栄養教諭による、食に関する授業を実施した。

1年生は、給食センターや給食調理についての授業、2・3年生にはバランス良く食べるための授業を行った。

授業を通し、苦手な物でも食べる、少しでも多く食べる等の子どもの食に関する意識の向上に繋げることができた。

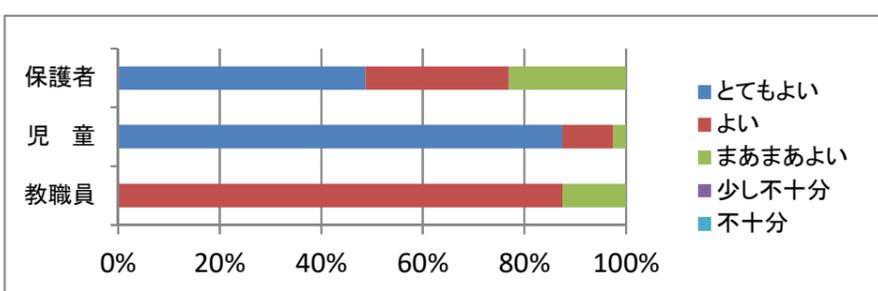
これからも、栄養教諭と連携をして、食に関する指導を行っていく。



[評価指標6]

(10)体力と運動能力の向上

平均値 保護者4.3 児童4.9 教職員3.9



新体力テスト(7月)

体育の授業等の練習を経て、全校で新体力テストを実施した。本校の記録と県・全国平均と比較し、今後の体力向上に活かしていく。

※上体起こし、立ち幅跳びの様子



ア 児童の状況

IV 基礎学力

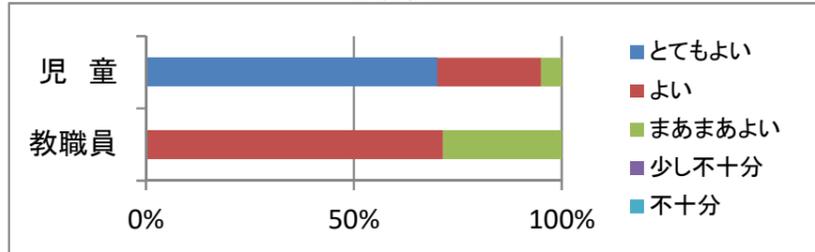
児童生徒の状況	自己評価A	協議会委員評価	協議会委員のコメント	
基本的な学習習慣を身に付け、意欲的に学習に取り組む、学力を向上させようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	全体的にはよいと思う。複式学級の子どもが少し心配であるため、複式学級の指導がいき届くように、学習支援員やもう1人教員の配置することが望ましいと思う。
	後期			
と自己校評の価改の善概要	【前期(→後期)】全て項目において子どもや保護者からの評価が昨年度より上がっている。保護者には、PTAでの授業や行事等を通して成長を感じてもらえる機会が多くあったことが考えられる。子どもは、振り返りやノート展など自分の成長を感じる場面を取り入れていることが考えられる。一方、教職員の評価が下がっていた。その要因として、(11)は、児童の実態から学習習慣を定着するのに時間がかかっていることが考えられる。(13)に関しては、学習習慣が定着しておらずその段階にいけないことが考えられる。また、複式学級が増え、多くの先生の負担が多くなり学び合いの工夫の確保などに苦戦していると考えられる。基本的学習習慣を定着できるように、東小っ子の約束チェックシートを活用し、継続的に指導していきたい。(12)(14)は前学期は取り組めておらず、12月の秋田県学習状況調査やCRTのテストに向けて時間を確保し、類似問題に取り組んでいった			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
7 学習への取組	(11) 基本的学習習慣の定着	聞き方・話し方指導の徹底 「学習の7か条」の徹底 ハンドサインの活用 ノートの使い方指導 家庭学習の励行	4	
	(12) 基礎学力の定着	学習が定着する授業の構築 パワーアップタイム 東小っ子テスト	4	
	(13) 主体的な学習態度	学び合いの場の確保 学習課題の吟味 指導方法の工夫	4	
8 諸検査の状況	(14) 学習状況調査・学力検査等の結果の改善	実態把握と課題分析 回復指導の実施	3	

[評価指標7]

(11) 基本的学習習慣の定着

平均値 児童4.7 教職員3.7

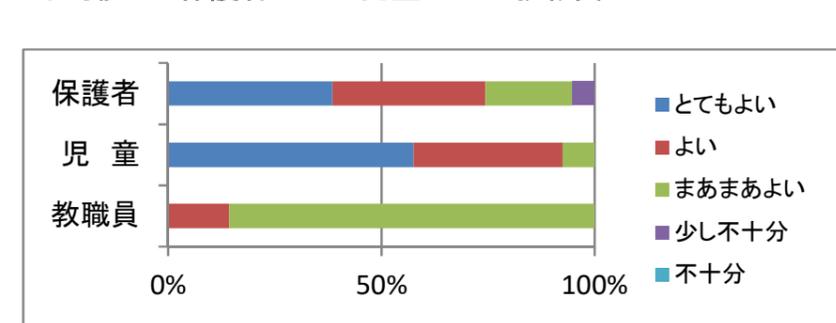


項目	達成	未達成	合計
1. 授業の準備ができて、授業の始まるまで待つ	8	0	8
2. 授業中、先生の話をよく聞く	6	5	11
3. 授業中、先生の話をよく聞く	6	4	10
4. 授業中、先生の話をよく聞く	6	4	10
5. 授業中、先生の話をよく聞く	6	4	10
6. 授業中、先生の話をよく聞く	6	4	10
7. 授業中、先生の話をよく聞く	6	4	10
8. 授業中、先生の話をよく聞く	6	4	10
9. 授業中、先生の話をよく聞く	6	4	10
10. 授業中、先生の話をよく聞く	6	4	10
合計	53	60	113

学習のきまり7か条
東小っ子の約束チェックシート
基本的学習習慣の定着を目指し、学習のきまり7か条を掲示している。また、学期始めにチェックシートを活用し学習習慣の定着を図った。前日ポイントが低かったものを次の日のめあてにして取り組んできた。

(12) 基礎学力の定着

平均値 保護者4.1 児童4.5 教職員3.1



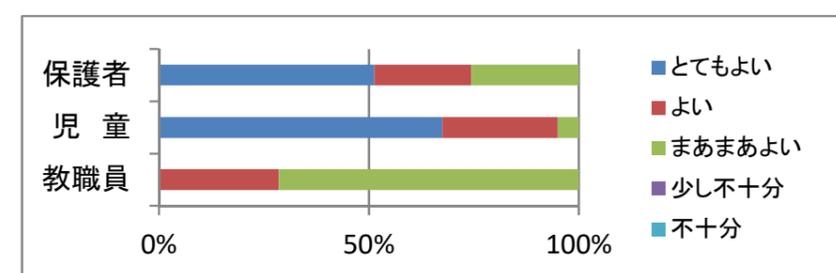
日々の授業や研究授業等を通じた児童の育成と授業改善

日々の授業を通して、基礎・基本の定着や伝え合う力を育成してきた。また、複式学級も増えてきているので学習リーダーも活用してきた。主体的な学習になるように、研究授業の事前・事後の研修を通して、授業改善にも取り組んできた。ICTを活用した授業実践にも取り組んでいる。



(13) 主体的な学習態度

平均値 保護者4.3 児童4.6 教職員3.3



【今年度の研究】

- 研究主題
主体的に学び、共に磨き合い、「分かった」「できた」の輪が広がる授業づくり～「数学的な見方・考え方を働かせた、自分たちで学び合う授業」を目指して～
- 研究の重点
 - ①基礎・基本の定着
 - ②伝え合う力の育成

ア 児童の状況

V 組織運営

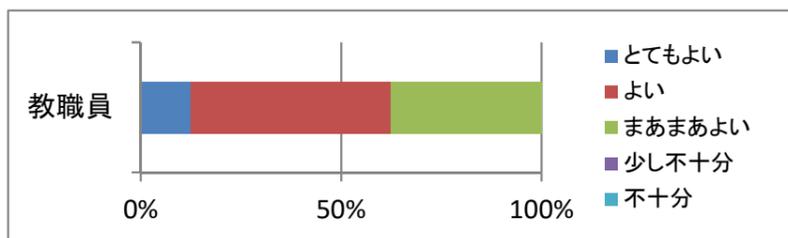
児童生徒の状況		自己評価A	協議会委員評価	協議会委員のコメント
重点目標の具現化に向けて、特色ある学校づくりが、計画的・組織的に推進されている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	職員数の削減、ふるさとキャリア教育等、昨年以上に先生方への負担が大きい。あまり無理のないように継続できるようにお願いしたい。
	年度			
の自己評価の概要と学校	【前期(→後期)】全ての項目において、昨年度前期の評価を下回った。その要因として、職員1名減による教職員一人当たりの負担が増加したことや、複式学級が2つになり様々な課題が顕著になったことが考えられる。「目指す子どもの姿」を全職員で共通理解し、先々を見通して準備を進め、現在の子どもたちから必要と思われる施策を提案し取り組んできた。その結果、あいさつの向上やメディアの上手な使い方を考えるなど、子どもたちに変容が見られたが、教職員の負担は大きいと思われる。今後は、学校行事やキャリア教育等の計画の見直しを図り、内容の精選や取捨選択、規模縮小など、意識を変えていく必要があると考える。授業改善と指導力の向上については、これからの様々な研修の機会を活用して授業の改善と指導力の向上に努めたい。			
	【後期(→次年度)】			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
9 教職員の学校運営参画	(15)経営方針や重点目標・施策の共通理解	実態把握による重点施策(東館3つのH)の設定と明示	3	
	(16)各指導部の運営と実践	「東館3つのH」の施策の提案 組織的な取組の実践	3	
10 教育課程の編成と実施	(17)特色ある教育課程	ふるさとキャリア教育の推進 円滑な教育課程の実施	3	
11 職員研修	(18)授業改善と指導力の向上	研究テーマに基づいた授業実践 授業研究会の充実 各種研修会への参加	3	

[評価指標9]

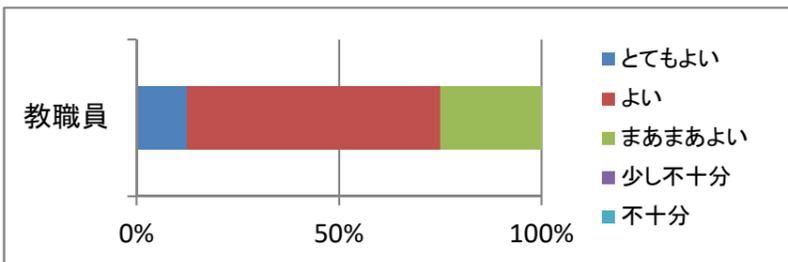
(15)経営方針や重点目標・施策の共通理解

平均値 教職員3.8



(16)各指導部の運営と実践

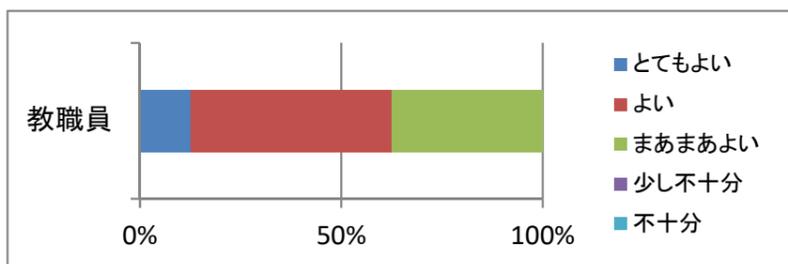
平均値 教職員3.9



[評価指標10]

(17)特色ある教育課程

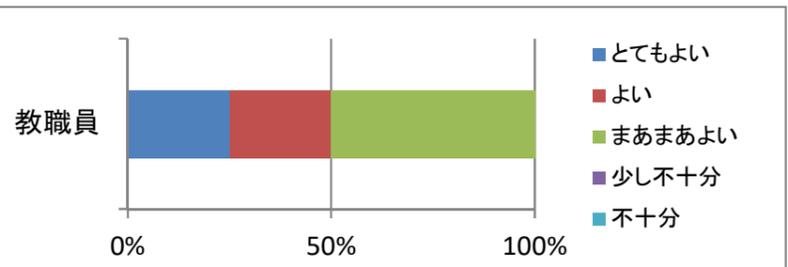
平均値 教職員3.8



[評価指標11]

(18)授業改善と指導力の向上

平均値 教職員3.8



☆「東館3つのH」の施策の提案・実践

4月 学習モードのスイッチオン！(Head・P)

5月 家庭学習 レベルアップ！

東小っ子の約束 チェックシート 1ねん1くみ

※種別の子で複数あり、○だった児童の数を記入する。

月	日	月	日	月	日	月	日	合計
4	1	4	1	4	1	4	1	
4	2	4	2	4	2	4	2	
4	3	4	3	4	3	4	3	
4	4	4	4	4	4	4	4	
4	5	4	5	4	5	4	5	
4	6	4	6	4	6	4	6	
4	7	4	7	4	7	4	7	
4	8	4	8	4	8	4	8	
4	9	4	9	4	9	4	9	
4	10	4	10	4	10	4	10	
合計								



・年度初めと夏季休業明けに学習の7か条、あいさつ、言葉遣い等をカードでチェックし、学級全体でできていない項目を確認し、重点的に指導することができた。
 ・家庭学習への取り組み方を見直し伸ばしたい力を確認して、家庭学習に取り組むことができた。

5月 元気なあいさつで、にこにこスマイル！(Heart&Health・P)

9月 にっこりサンキューでハッピースマイル



・「自分からあいさつポイントカード」を活用し、遠くからでも自分から進んで、目を見て笑顔であいさつができるよう意識付けることができた。きちんとあいさつができた日は玉入れの掲示にシールを貼る「あいさつ玉入れ合戦」で、自主的なあいさつが定着した。
 ・互いを認め合う態度の育成を目指し、友達のいいところやがんばっていることなどを全校で紹介する活動を行った。

7・8月 健康的な時間の使い方について話し合って決めよう

(Heart&Health・P)

・夏休みの前に、望ましいメディアの活用について考える機会をもった。「メディアを時間どおりにやめるためには」と「メディア以外の楽しいこと」について、たてわり班で話し合った。各グループで様々な意見が出され、夏休みだけでなく、普段からメディアと上手に付き合っていくことが大切だという意識付けになった。

☆各学年のふるさとキャリア教育☆

- 全校：とんぶり活動(種まき、草取り)
- 1年：学校をたんけんしよう
- 2年：まちたんけん
- 3年：とんぶりについて調べよう
とんぶり料理
- 4年：椎茸植菌・収穫
独鈷ばやしを伝えよう
- 5年：椎茸植菌・収穫、独鈷ばやし
比内の仲間と交流しよう
- 6年：椎茸植菌・収穫
発見！発信！ハッピー！In 比内 for 未来



3年 とんぶり料理(桂桜高校)

ア 児童の状況

VI 保護者・地域との連携

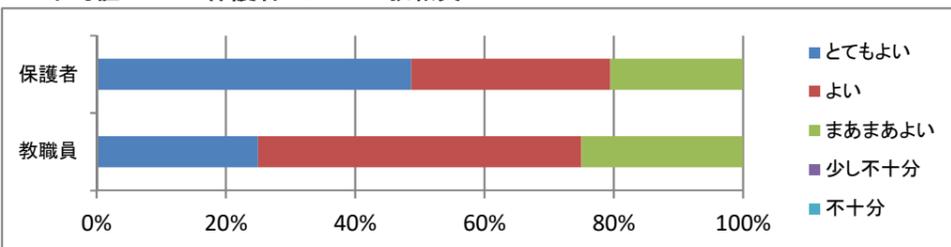
評価項目		自己評価A	協議会委員評価	協議会委員のコメント
学校の取り組みが分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が有効に活用されている。	前期	良好	良好	学校と地域の連携を強くしたいと考え、「東大三学部」は150周年記念の協力体制のために立ち上げた。運動会は、地域の協力を受けて、少ない予算で成果を上げることができた。これから実施する、心の架け橋フェスティバルは、どのように行うのかを検討してほしい。
	後期			
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→後期)】	(19)今年が150周年ということから、教育活動や子どもの活躍を、毎月の学校報にたくさん掲載してもらい、それを楽しみで見ている保護者や地域の方が多いので、大変喜んでくれている。また、各行事を事前にブログで紹介することで広報活動につながり、それを見た地域の方が活動に協力してくれるというように、地域とのつながりが高まったことも要因である。 (20)校長先生が、毎朝校門で子どもたちを迎え入れてくれていることが、保護者として強い安心感へと繋がっている。また、先生方から子どもたちや保護者への丁寧な対応が、保護者としても先生方に困っていることを相談しやすい関係ができてきているため、継続していきたい。今後は、児童数や教職員の減少を考えて、諸活動の内容を検討し、活動を縮小するなどの見直しが必要である。 (21)運動会では神成後援会長さんが、「東大三学部」を立ち上げ、地域と一緒に活動することができた。また、PTA活動として「合同親子レクリエーション」を企画し、「防災キャンプ」として初めて開催した。このように地域や関係機関と連携してできたことは大きな成果と捉え、今後に繋げていきたい。		
	【後期(→次年度)】			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
12 情報の受発信	(19)学校の様子が伝わる情報発信	魅力ある学校報・学年通信・ホームページ・ブログ等による情報の発信	4	
	(20)保護者・地域からの情報収集	PTA諸会合 家庭訪問 個人面談 保護者アンケート 学校運営協議会等の開催	3	
13 地域の教育力の活用	(21)地域素材や人材の効果的な活用	地域学習材の活用 体験学習の推進 授業や諸活動でのゲストティーチャーの活用	4	

【評価指標12】

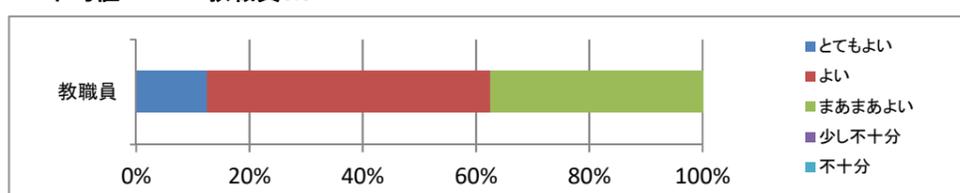
(19)学校の様子が伝わる情報発信

平均値 保護者4.3 教職員4.0



(20)保護者・地域からの情報収集

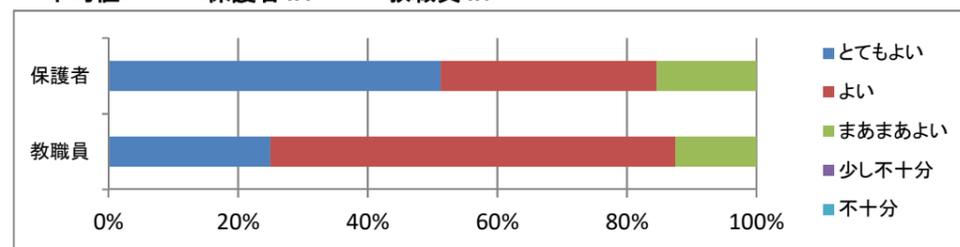
平均値 教職員3.8



【評価指標13】

(21)地域素材や人材の効果的な活用

平均値 保護者4.4 教職員4.1



5/9「椎茸植菌・収穫活動」4~6年生

大葛小時代の人脈や環境を引継ぎ、現在も継続。子どもたちは、「自分たちの力で植えた椎茸」という思いをもって作業に一生懸命に取り組むことができた。



7/9 桂桜高校生と合同でとんぶり料理づくり

3年児童が、とんぶり料理作りに桂桜高校生と一緒に活動し、調理方法など高校生に教えてもらいながら、楽しく活動した。子どもたちは、高校生と交流することで、大きくなったら自分たちも同じように、下学年を世話してあげたいという気持ちになることができた。



7/20-21「大葛小星空防災キャンプ ~開校150周年記念PTA全校合同レクリエーション~
内容は、「防災段ボールベッド作り」、「川遊び」、「防災食体験」、「キャンプファイヤー」、「星空観察会」(大葛小展望台)、宿泊体験(体育館)を行った。特に「川遊び」が大人気で、楽しかったという感想が多かった。PTAの三役、記念イベント部門の方、大葛地区の方々の多くの協力により、子どもたちの思い出に残る活動がで



5/11「創立150周年記念大運動会」

PTAや後援会「東大三学部」、地域の方と連携して開催した。今回は、人数不足のところに保護者の方に一緒に参加してもらおうなどの工夫をした。また、後援会の協力を得て、「地区対抗綱引き」や「地域の高齢者、幼児参加型の宝さがし」を組み入れ、大盛況であった。記念企画の「150個バルーン飛ばし」も、晴天に恵まれ、児童、保護者、地域の方に参加してもらい、学校創立150周年を皆で祝うことができた。

【人材の効果的な活用】

- ①正課クラブ「将棋クラブ」山田勝巳さん
- ②「椎茸植菌・収穫」角森繁永さん 山本隆仁さん
- ③とんぶり栽培 本間 均さん
- ④「金山太鼓」加賀谷廣美さん
- ⑤交通教室・バスの乗り方教室 独鈷駐在所長 大館警察署員の皆さん 秋北バスの皆さん
- ⑥「食育指導」比内給食センター栄養教諭